

2019年度 早稲田大学大学院教育学研究科

高度教職実践専攻入学試験

(一般入試 (後期日程) : 筆記試験 (教職教養))

問題用紙

注意事項

1. 問題冊子および解答用紙は、試験開始の指示があるまで開かないこと。
2. 問題は、2～4ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
3. 受験番号および氏名は、試験が開始されてから、解答用紙の所定欄に正確に記入すること。なお、解答用紙が複数枚ある場合には、それぞれの所定欄に正確に記入すること。
受験番号は以下の例のとおり、数字で記入すること。

(例) 11001 番 ⇒

万	千	百	十	一
1	1	0	0	1

4. 解答はすべて解答用紙の所定欄にHBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。
5. 試験終了の指示が出たら、すぐに解答を止め、筆記具を置くこと。終了の指示に従わずに解答を続けた場合は、答案の全てを無効とするので注意すること。
6. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。
7. いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出すること。

問 1. 次の説明に該当する事柄を、ア～コからそれぞれ 1 つ選び、その記号を解答欄に書きなさい。

- (1) 1882 年、大隈重信により東京府に設立された私立学校。早稲田大学の前身である。
- (2) 1890 年、国民道德の基本を示し、教育の根本理念を明らかにするために発布された。文案の起草者は井上毅で、元田永孚が成文化に協力した。
- (3) 1917 年、東北帝国大学や京都帝国大学の総長を歴任した沢柳政太郎が真の教育を目指し始めた学校組織。
- (4) 1919 年、教員の生活権の擁護や教育による社会改造を志向し、埼玉師範の元教員下中弥三郎とその教え子たちが中心になり組織を結成した。
- (5) 1951 年、無着成恭が編集して出版した山形県の山元中学校の作文集。生活綴方教育実践として注目をあつめた。

ア. 教育勅語	イ. 成城学園	ウ. 啓明会	エ. 東京師範学校
オ. 山びこ学校	カ. 自由学園	キ. 教学大旨 (聖旨)	
ク. 日本教職員組合	ケ. 東京専門学校	コ. 赤い鳥	

問 2. 以下は学校教育法の条文である。空欄 (①) ～ (⑤) に当てはまる適切な語句をそれぞれ回答欄に書きなさい。

- (1) 幼稚園は、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために (①) を与えて、その心身の発達を助長することを目的とする。
- (2) 小学校は、心身の発達に応じて、義務教育として行われる (②) のうち (③) なものを施すことを目的とする。
- (3) 中学校は、小学校における教育の基礎の上に、心身の発達に応じて、義務教育として行われる (②) を施すことを目的とする。
- (4) 高等学校は、中学校における教育の基礎の上に、心身の発達及び進路に応じて、高度な (②) 及び (④) を施すことを目的とする。
- (5) 中等教育学校は、小学校における教育の基礎の上に、心身の発達及び進路に応じて、義務教育として行われる (②) 並びに高度な (②) 及び (④) を (⑤) して施すことを目的とする。

問3. 次の文章は、平成29年3月に公示された中学校学習指導要領のうち「第1章 総則」の「第2 教育課程の編成」に記述されている一節である。空欄（①）～（③）に当てはまる語句を解答欄に書きなさい。

各学校においては、生徒の（①）の段階を考慮し、言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む。）、問題発見・解決能力等の（②）の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、各教科等の特質を生かし、教科等（③）的な視点から教育課程の編成を図るものとする。

問4. 以下の3つの問いについて、それぞれあてはまる記号をア～オから1つ選び、解答欄に書きなさい。

（1）トールマンは「学習とは、『何をどうすればどうなる』という、手段と目的の関係について認識を獲得することである。」と述べた。この考え方を表す概念は、以下のどれか。

- | | | |
|--------------|---------------|----------|
| ア. 道具的条件づけ | イ. 洞察 | ウ. 偶発的学習 |
| エ. オペラント条件づけ | オ. サイン・ゲシュタルト | |

（2）燃え尽き症候群についての説明で誤っているものはどれか。

- ア. ストレス耐性との関係が指摘されている。
イ. フロイデン・バーガーが唱えた症状。
ウ. ワーカーホリックと同義。
エ. 対人援助職のように、没頭しても終わりが見えない職種ほど危険性が高い。
オ. アルコール依存や仕事からの逃避などの症状が見られる。

（3）ピアジェは認知発達について4段階説を主張した。年齢が低い順から数えてその第2段階に位置するものは何と呼ばれるか。

- | | | |
|-----------|----------|-----------|
| ア. 前操作期 | イ. 潜伏操作期 | ウ. 形式的操作期 |
| エ. 具体的操作期 | オ. 感覚運動期 | |

問5. 以下の(A)～(D)のそれぞれの領域について、いずれかの語句を選び、その説明を解答欄に書きなさい。なお、解答用紙の該当欄に、選んだ語句をそれぞれ記入すること。

領域 (A) (教育原理)

- ☐ 木下竹次
- ☐ 教育機会の確保

領域 (B) (教育史)

- ☐ 師範学校令
- ☐ 学制

領域 (C) (教育法規)

- ☐ 道徳の教科化
- ☐ 児童の出席停止

領域 (D) (教育心理)

- ☐ スキャフォールディング (足場かけ)
- ☐ 自閉症